
「海の生き物を守る会」メールマガジン No.23

2008. 8. 17 (日)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今日の海の生き物」 ミドリイガイ *Perna viridis*

ムラサキイガイに似て美しい緑色の殻を持つ二枚貝。原産地東南アジア海域では重要な食用二枚貝として日本にも輸入され、食用とされてきた。しかし、近年、1980年代に瀬戸内海、熊野灘、三河湾、東京湾などに大量に繁殖しているのが発見されている。岩に付着するだけでなく、写真のように泥底にも集団で付着し、場所によってはホトトギスガイを排除してはびこってきている。外来種二枚貝として今後、その分布の動向と生態に注目する

必要がある。



(写真は三河湾の
アマモ場にて
向井 宏撮影)

目次 「今月の海の生き物」ミドリイガイ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 当会の活動予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介
5. 事務局便り
6. 編集後記
7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【全国】

●自然再生基本方針の見直し 手続き始まる

環境省は、自然再生推進法に基づき閣議決定で定めた自然再生基本方針の見直し案について手続きを始め、現在パブリックコメントを募集している。パブリックコメントを受けて修正をした上で、9月中には基本方針の改定を行う予定だ。パブリックコメントは次のURLで環境省ホームページから出すことができるので、見直し方針を確認して意見を出して欲しい。締め切りは、9月3日。<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=10044>

【北陸】

●富山県下新川海岸を水防警報海岸に指定

国土交通省は今年2月の富山県沿岸を襲った高波について、高波災害対策検討委員会を開き、被害の大きかった下新川海岸を水防警報海岸に指定した。委員会は高波の発生メカニズムや浸水前後の避難行動、情報伝達などについて検証し、全国で初めて高波対策の基本的な方向性をハード、ソフト両面からまとめた。水防警報海岸の指定は国の直轄海岸では初めてとなる。今後は水防警報の発令基準や水防訓練の内容を具体的に検討することになっている。被災施設については、計画上の波の高さや周期を見直し、堤防の改築や排水関連施設を改良するという。この海岸の砂浜をコンクリートで固めていたことが高波の被害とどのように関係していたかなどは検討されたのだろうか？

【九州】

●有明沿岸広域で魚大量死 赤潮が原因？

長崎県諫早市から佐賀県白石町にかけての有明海沿岸で今月13日、小魚やカニなどが大

量に死んでいるのが発見された。夏になって有明海では昨年と同様に有害な植物性プランクトン「シャットネラ」の赤潮が発生している。昨年は諫早市北部の小長井海岸で養殖アサリがほぼ全滅しており、漁業者からは今年もアサリ被害があるのではないかとの懸念も出ている。海岸では赤褐色の海面に小魚が白い腹を見せ、波打ち際にはハゼの稚魚やカレイ、カニなど数千匹の死骸が流れ着いている。

佐賀県有明水産振興センターによると佐賀県沖の有明海のほぼ全域で、シャットネラによる赤潮が発生していることが観測された。その後、シャットネラの赤潮は終息する気配を見せていたが、その矢先にこの被害が起こった。

諫早干拓事業の潮受け堤防開門を求めて訴訟を起こした小長井町漁協の松永さんは「潮受け堤防が閉まり、赤潮が滞留しやすくなって被害が広がっている」と主張している。長崎県水産基盤計画課は、これから小長井海岸のアサリも含めて被害状況を調べることにしている。有明海の死臭はとどまることを知らないようだ。

【沖縄】

●海ぶどうも産地偽装

緑藻の一種クビレズタは食用の海藻として沖縄の名産品となりつつある（商品名は海ぶどう）が、外国産輸入品を沖縄県産として販売した産地偽装問題が発覚した。沖縄県農林水産部はフィリピン産混在を知りつつ「沖縄産」と表示して海ブドウ製品を販売したとして、那覇市の「にらい物産」と「ミネ・オーキッド」に対してJAS法に基づく改善指示を出した。ミネ社は混在海ブドウを2006年10月から12カ月で約13トン出荷したが、そのうち7トンがフィリピン産だった。にらい物産は同製品を県内土産店やインターネットを通じて県内外に販売していた。

2. 活動報告

●海の生き物を守る会・長島の自然を守る会

合同観察会・砂浜海岸生物調査報告

今年度第3回の自然観察会は、山口県上関町長島田ノ浦で、8月2日（土）に「長島の自然を守る会」（代表：高島美登里さん）との合同で行われました（セブン-イレブンみどりの基金後援）。午前10:30に蒲井港に集合し、集いの家で昼食後、田ノ浦海岸で「海の生き物を守る会」が提案している砂浜海岸生物調査を指導して、行いました。その後、集いの家で夕食後、日没後に田ノ浦海岸で茨城県自然博物館学芸員の池澤広美さんの指導で、アカテガニの放仔を観察しました。ちょうど大潮の満潮時で、たくさんのアカテガニが海岸に降りてきて、次々にお腹に抱えている子供を海に放す様子を観察しました。参加者はアカテガニの母親のけなげさに感動した様子でした。参加者は9名。他に映画監督とカメラマ

ンが観察会の様子取材し、撮影しました。当日は35℃を超える酷暑日となり、参加希望者の中でもバテて参加を取りやめる人が相次ぎました。次回からは盛夏を避けて行いたいという意見が出ました。



砂浜海岸生物調査を行う参加者たち
(撮影：向井 宏)



アカテガニの放仔を観察する参加者たち
(撮影：向井 宏)



多くの卵をお腹に抱えて夜の海岸へ幼生を放しにやってきたアカテガニの雌
(撮影：池澤広美)

3. 当会の活動予定

● 砂浜海岸生物調査のお願い

海の生き物を守る会・OWS

海の生き物を守る会では、セブン-イレブンみどりの基金の後援で、NPO法人OWSと共同で今年から全国の砂浜海岸生物調査を実施しています。日本の砂浜を生き物のために取り戻そうと計画された調査です。調査は誰にでもできる方法で計画されていますので、少しでも多くの方が、多くの海岸でこの調査に参加していただけるようお願いいたします。

ご協力いただける方は、事務局までお申し出ください。方法と調査報告用紙をお送りいたします。なお、方法と調査用紙は希望者にはメールでもお送りします。当会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> にも掲載しています。

● 野付半島の自然を守るワークショップ

日立環境財団の支援を受けて行われる「野付半島ワークショップ」(共催：別海町)が以下のように27日9:30から北海道別海町の東公民館で行われます。参加費は無料です。多くの参加をお願いします。

ワークショップ

野付半島の自然を守るために

—防災と環境の両立を目指して—

挨拶:水沼 猛 別海町長

1. 生物多様性に関する「温暖化適応策」を考える
鷺谷いづみ(東京大学教授)
2. 鳥の渡りと野付半島の自然
樋口広芳(東京大学教授)
3. 野付半島の自然と昆虫
加藤 真(京都大学教授)
4. 野付湾の海の自然と生き物
向井 宏(北海道大学名誉教授)
5. 野付海岸の自然を守る取り組みについて
森田正治(野付半島ネイチャーセンター長)
6. 様々な人為改変の結果として沿岸漂砂の連続性が絶たれた砂嘴・野付崎の将来の姿を予測する
宇多高明(土木研究センター理事)
7. 現地からの沿岸域管理のために
川辺みどり(東京海洋大学准教授)

総合討論(賢明な利用と保全に向けて)

会場： 別海町東公民館 大集会室
日時：8月27日(水) 9:30~15:00

主催:海の生き物を守る会 共催:別海町 後援:日立環境財団

3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【関東】

●学術シンポジウム

霞ヶ浦導水事業は那珂川のアユと自然環境にどのような影響をおよぼすか？

茨城県会場：9月6日(土) 午後1時から5時

「コミュニティーセンター城里」東茨城郡城里町石塚 1428 の1
(城里町役場敷地内) 電話 029-288-6100

栃木県会場：9月7日(日) 午後1時から5時

「ホテル花月」栃木県大田原市黒羽向町2 電話 0287-54-1105

プログラム

挨拶 13:00～

茨城会場 君島恭一(那珂川漁業協同組合長)

栃木会場 遠藤鉄郎(栃木県那珂川漁業協同組合連合会長)

趣旨説明

時代の流れと霞ヶ浦導水事業の根本問題

川崎 健(東北大学名誉教授)

一般報告

1. 導水事業で霞ヶ浦・千波湖は浄化されるのか？

高村義親(茨城大学名誉教授)

2. 日本一の天然アユにおよぼす導水事業の影響

高橋勇夫(たかはし河川生物調査事務所所長)

3. 導水による流量低下が魚類・生態系に与える影響

浜田篤信(元・茨城県内水面水産試験場長)

4. 導水事業で損なわれる生物多様性

丸山 隆(東京海洋大学助教)

総合討論

15:10～16:30

コメント：導水事業と那珂川の漁業権

丸山幸司(弁護士)

開催趣旨

那珂川はアユの漁獲量が日本一の河川です。毎年、春には膨大な量の天然アユが川を遡上(そじょう)し、夏には上中流域で餌を食み、秋には子持ちアユとなって中下流域で産卵します。卵からふ化した仔魚たちは海に下り、冬を暖かな浅海域で生育しながら春を待つ。まさに、山・川・海の那珂川は自然環境が日本一のアユ資源を支えているとあって過言ではありません。しかし、いま、この自然豊かな那珂川に霞ヶ浦導水事業にともなう取水口建設が計画され、漁業権をもつ関係漁協の同意もないまま、工事が強行されています。漁業権無視のこのような工事は日本全国でも例が無く、栃木・茨城両県すべての漁協が一致して工事差し止めを求めています。導水事業は総事業費1900億円、毎日129万トン

もの那珂川の水を霞ヶ浦に、渇水期には毎日 95 万トンの水を霞ヶ浦から那珂川に送水しようとするものです。異なる自然生態系をもつ水系の水を大規模に移送する導水事業は、先ごろ国会で成立した生物多様性基本法の趣旨にも背くもので、那珂川水系の自然に様々な影響をおよぼすものと懸念されています。そこで、本シンポジウムでは導水事業が那珂川の自然環境とアユ、そして漁業にどのような影響を与えるのか？研究者らが学術的な見地から検討します。

問合せ先：那珂川関係漁協協議会事務局（山本） [TEL:029\(288\) 3034](tel:0292883034)

共催：霞ヶ浦導水事業影響評価委員会、那珂川関係漁業協同組合協議会
（茨城県）那珂川漁協・那珂川第一漁協・緒川漁協

（栃木県）那珂川北部漁協・那珂川南部漁協・茂木町漁協・那珂川中央漁協

後援：栃木県漁業協同組合連合会、茨城県内水面漁業協同組合連合会

●第9回「OWS 5人の写真展～未来に残したい海～」2008 分析展開催 講演会「未来に残したい海とサンゴ礁 ～自然写真家高砂淳二さんが海を語る～」

9月3日(水)～5日(金)の3日間、幕張メッセにて開催される2008分析展にて、9回目となる巡回写真展「OWS 5人の写真展」を開催します。同時に、9月3日に開かれる「夏の環境セミナー」では、OWS 高砂淳二理事による講演が開催されます。

開催日 2008年9月3日(水)～9月5日(金)

開催時間 10:00～17:00

開催場所 幕張メッセ 5ホール

交通 JR京葉線「海浜幕張」駅下車 徒歩5分

入場 無料

協賛 オリンパス株式会社

イベント 国際サンゴ礁年2008 夏の環境セミナー開催

「未来に残したい海とサンゴ礁

～自然写真家高砂淳二さんが海を語る～」

2008年9月3日(水)14:00～16:00

定員 : 200名 参加費無料(事前申込優先)

会場 : ホテルニューオータニ幕張 2階 麗の間

(JR京葉線海浜幕張駅より徒歩10分)

参加方法：下記分析展ホームページより申込み

主催 2008分析展委員会・OWS共催

問合せ OWS事務局 Tel: 03-5960-3545 <https://www.jaimashow.jp/ecoseminar/index.html>

●OWS海のトークセッション 「市民が参加する生態系モニタリング」

スピーカー: 阪口法明 (環境省自然環境局生物多様性センター)

地球温暖化の影響など生態系変化を捉えるため、環境省では研究者や市民の協力のもと、「モニタリング 1000」という事業を展開しています。この講演では、サンゴ礁など海の生態系モニタリングを中心に、「モニタリング 1000」の調査を紹介します。

開催日 9月11日(木)19:00~20:30 (18:30 受付開始)

会場 Nature info Plaza 丸の内さえずり館

千代田区有楽町 1-12-1 新有楽町ビル 1階

交通 JR 有楽町駅 or 東京メトロ有楽町線・有楽町駅徒歩1分

参加費 800円 定員 先着40名

協賛 オリンパス株式会社

申込み OWSホームページから事前にお申し込み下さい。

⇒<http://www.ows-npo.org/activity/ts/index.html#44>

【中国】

●播磨灘を守る会 第20回エコツアー (予定)

～ 紀伊半島は田辺市天神崎・串本町・熊野古道を訪ねる ～

8月23日(土)～24日(日)

主催 播磨灘を守る会 TEL 079-322-0224

●第31回瀬戸内沿岸住民集会

「いま、なぜ、湾岸道路建設・・・?もっと国民の命とくらしを大切に」

9月7日(日) 9:00~17:00

明石市民ホール(兵庫県明石市 JR明石駅南徒歩5分)

問合せ 瀬戸内の環境を守る会

TEL 078(911)7397 Fax 078-912-0700

Eメール: setokan3-15@hm.h555.net

【沖縄】

●「オキナワのジュゴンを知ろう」

日時: 2008年8月17日(日) 午前10時~午後4時

場所: 沖縄県名護市東海岸(嘉陽)

内容: ジュゴンの食べている海草を観察し、彼らの生きている環境をクイズで学ぶ、ほか。

対象: 一般、定員30名、要予約

持ち物: 弁当、飲み水、日焼け止め、帽子、水に濡れても良い靴と服装、着替え、水着。

料金: 資料・保険料込みで500円

主催および連絡先：北限のジュゴンを見守る会・沖縄事務所 担当：鈴木雅子
090-8032-2564 もしくは n-hokugen.19@kjd.biglobe.ne.jp

5. 事務局便り：

- 講演の講師派遣を希望される方は、事務局へお問い合わせください。沿岸の生物やその環境についての問題、沿岸生態系の構造、保全、再生、地球環境問題、環境教育などに関する講演を行うことができます。
- 本会へのカンパをお寄せください。口座は埼玉りそな銀行指扇支店 3896180。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定です。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や海の生き物を守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーをごらんになりたい方は事務局までご一報ください。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

6. 編集後記

立秋は過ぎたとはいえ、まだまだ暑さ厳しい季節です。23号の「うみひろも」を一日遅れでお届けします。北海道別海町で開かれる「白砂青松を守るプロジェクト」の野付半島ワークショップが近づいてきました。ぜひ皆さんお誘いの上、ご参加ください。編集人の都合で次号は一回休んで、9月15日配信の予定とします。あしからず。(宏)

7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。会員および関心を持っていただけると思われる方にお送りしています。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。「海の生き物を守る会」の趣旨および組織の概要は会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> をごらんください。

会員募集中！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000

円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。会員は本会の名前で各地の活動のための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。

事務局員も募集中！

事務局を手伝っていただける人を探しています。パソコンが使える環境にあれば近くにいなくてもお手伝いいただけます。ただし、無収入ですので海の生き物の保全・保護に関心とボランティア精神のある方。

メールマガジン『うみひろも』第23号 2008年8月17日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」代表 向井 宏 (090-8563-1501)

〒350-0001 川越市古谷上 6083-7 M-1-212 メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：埼玉りそな銀行指扇支店 3 8 9 6 1 8 0

